

Hem21

財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構ニュース

- ひょうご震災記念
21世紀研究機構事業スタート…… 1
- 研究調査本部…………… 2
- 学術交流本部…………… 3
- 人と防災未来センター…………… 4
- こころのケアセンター…………… 5
- HAT神戸掲示板…………… 4・5
- 事務局…………… 6

ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Institute の略称「Hem21」を
シンボルマークとあわせてロゴマークとしています

ひょうご震災記念21世紀研究機構事業スタート

当機構は、阪神・淡路大震災の10年にわたる復興過程の総括検証を通じて、21世紀文明社会の目標として再認識した「安全・安心なまちづくり」と「共生社会の実現」を着実に推進するため、これまで創造的復興や新たな地域づくりに先導的な役割を果たしてきた「(財)阪神・淡路大震災記念協会」と「(財)21世紀ヒューマンケア研究機構」を統合して、実践的な政策提言を行う総合的シンクタンクとして平成18年4月、設立されました。

機構は、安全安心社会研究所、地域政策研究所、長寿社会政策研究所、少子・家庭政策研究所の4つの研究所からなる『研究調査本部』、『人と防災未来センター』と『こころのケアセンター』の2つのセンター、そして『学術交流本部』、『事務局』で構成され、各セクションがそれぞれの機能を発揮しながら、総合的な研究や研修・学習などの諸事業を進めるとともに、この地域に集積する防災・健康・環境・人道支援等に関する国際的な研究・活動機関とのネットワークを活かした取り組みも展開しています。

理事長 貝原 俊民

記念シンポジウムを開催 ～様々な活動を展開～



機構が果たすべきシンクタンクとしての役割や期待について議論を深めるため、平成18年7月4日にシンポジウムを開催しました。

新野幸次郎(財)神戸都市問題研究所理事長が「21世紀文明創造に果たす地方シンクタンクの役割」について基調講演を行い、引き続きパネルディスカッションを行いました。コーディネーターは、研究機構の五百旗頭真研究調査本部長が務め、パネリストは伊藤元重総合研究開発機構理事長、西尾勝(財)東京市政調査会理事長、山崎正和兵庫県立芸術文化センター芸術顧問でした。

当日は、21世紀の課題にふさわしい日本の社会システムはどうあるべきか、社会の価値観が転換するなかで、それを支える社会システムの確立のため、地域の自立や分権をどのように進めていくべきか、シンクタンクはどのように貢献できるかなどを議論しました。

また、9月には4つの研究所において、研究員の採用を行い研究に着手するとともに、人材育成や学習事業を進めているところです。

「Hem21」発刊について

当機構では、様々な地域課題や政策課題に関する研究を行い、行政や地域社会に対して政策提言をしていくとともに、その成果をセミナーやシンポジウムなどを通じ直接県民に還元するのをはじめ、自治体職員などを対象とした研修のほか、ホームページや研究報告書・研究紀要への掲載、さらにはプレス発表等、多様な媒体、機会を通じて幅広く発信するなど、兵庫の地から21世紀文明の創造に貢献するシンクタンクを目指していきたいと考えています。

このたびこうした機構の様々な活動や、タイムリーな情報を地域や県内外の研究者及び、県民の皆様にも広く提供していくことを目的に、このニュースレターを発行する運びとなりました。より多くの人に機構を理解してもらうとともに、HAT神戸内のイベント紹介なども含め、機構の存在を身近に感じていただけるような紙面を目指します。

平成18年度 研究方針

阪神・淡路大震災の経験と教訓から得られた、近代文明のもつ二つの基本課題に対して、4つの研究所、1つの研究部、特別研究及び2つのセンターで研究調査を行います。

第1の「安全・安心なまちづくり」では、「安全・安心社会の実現、まちづくり・地域づくりのあり方」を課題として、安全・安心概念の確立、都市づくり・地域づくり等について研究調査を行い、政策提言を行います。

第2の「共生社会の実現」では、「共生社会のあり方」を課題として、長寿社会に関する社会システム、家族・家庭の機能・教訓等について、研究調査を行い、政策提言を行います。

平成18年度研究テーマ

区分	課題	研究テーマ	研究所名	
21世紀文明の課題	21世紀文明の課題とは何か	「21世紀文明を考える研究会」	特別研究	
安全・安心なまちづくり	安全・安心社会の実現 まちづくり・地域づくりのあり方	① 21世紀における安全・安心とは何か。	「自然災害を始め、社会の様々な不安に対する安全・安心の仕組みに関する研究」	安全安心社会研究所 所長 林 敏彦 (放送大学教授)
		② 我が国の危機管理は大丈夫か。	「大災害に備えた我が国危機管理機能のバックアップ体制に関する研究」 (災害広域支援構想のあり方とあわせて)	
		③ 生きる基盤としての住まいのあり方はどうあるべきか。	「住の安全・安心に関する研究－災害多発国での住宅政策のあり方」	
		① 都市の活力をどう維持するか。	「都市における国際競争力醸成のための地域政策のあり方に関する研究」	地域政策研究所 所長 加藤 恵正 (兵庫県立大学経済学部教授)
		② 都市の空間構造の再構築をどう考えるか。	「都市圏域の空間構造のあり方に関する研究等」	安全安心社会研究所
		③ 多自然居住地域は安全か。	「多自然居住地域における安全・安心に関する研究」	
		④ 広域行政のあり方に問題はないか。	「関西圏域における広域行政に関する研究会」	
		⑤ 復興と都市づくりの実態はどうか。	「阪神・淡路大震災における被災自治体の財政運営について」	特別研究
共生社会の実現	共生社会のあり方	① 成熟した社会のコミュニティは、どう成り立つのか。	「自立型地域社会の構築に向けたコミュニティ政策に関する研究」	地域政策研究所
		② 社会の教育力をどう再生するか。	「自然学校、トライやるウィーク等 兵庫型体験学習の効果、評価の分析研究」	少子・家庭政策研究所 所長 野々山 久也 (甲南大学文学部教授)
		③ 育児についての社会システムがつかれないか。	「少子化対策とライフスタイルの多様性に関する研究」 「家族・家庭を支えるための地域社会の役割についての調査研究」	長寿社会政策研究所 所長 足立 正樹 (神戸大学大学院経済学研究科教授)
		④ 活力のある高齢社会をどうつくるのか。	「人口減少社会における世代間分担のあり方、高齢社会の将来展望についての研究」 「団塊の世代等、中高年世代の意識等に関する調査研究」	
		⑤ 多文化共生のために何をすべきか(母語教育)。	「多文化共生社会に関する研究会」 「母語教育のあり方に関する研究」	学術交流本部・研究部 研究部長 芹田 健太郎 (愛知学院大学法学部教授)
基本的かつ重要な課題として各センターで進めている研究	減災社会の実現	i 災害初動時における人的・社会的対応の最適化	人と防災未来センター センター長 河田 恵昭 (京大防災研究所長)	
		ii 広域災害に向けた組織間連携方策の高度化		
		iii 地域社会の復旧・復興戦略の構築		

区 分	課 題	研究テーマ	研究所名
基本的かつ重要な課題として各センターで進めている研究	こころのケアのあり方 ・こころのケアのあり方をどう構築するか。	i 災害や大事故後の集団への早期介入の有効性に関する研究	こころのケアセンター センター長 中井 久夫 (神戸大学医学部名誉教授)
		ii 大規模交通災害による負傷者への介入と転帰に関する研究	
		iii DVが子どもの発達に与える影響に関する研究	
		iv 職場における精神疾患罹患者への復帰プログラムに関する研究	

研究調査本部

阪神・淡路大震災の経験と教訓を生かし、命の尊厳と生きる喜びを高めるヒューマンケアの理念を基本として、復興10年総括検証・提言に基づく、「安全・安心なまちづくり」と「共生社会の実現」をめざす総合的な研究調査を行い、震災を経験した地域のシンクタンクとして、様々な地域課題や政策課題について政策提言を行う。

学術交流本部

本部長

崎山 昌廣 (神戸学院大学客員教授)

知的ネットワークの成果を地域に —21世紀文明研究セミナーの開催—

「21世紀文明研究セミナー」は、当機構やHAT神戸に集積する国際関係機関等の知的ネットワークの研究成果を地域に還元する「コレージュ・ド・ひょうご」構想の具体的なプログラムとして、「あの日(1/17)に芽吹き、いま咲き始める —新しい知の花園へ」をキャッチフレーズに、平成18年9月から開講しました。

このセミナーは、当機構の各所長・センター長が各分野における研究の方向性等を様々な抱負を交えて紹介する「トップリレー式総合講座」をはじめ、「多文化共生」、「防災支援」、「保健・医療」、「地球環境」等の「平和の技術」に関する講座で構成され三宮の県立神戸学習プラザで開催しています。

いずれの講座も受講者多数の盛況で、特に「トップリレー式総合講座」については、その概要が神戸新聞に連載される等、当機構のめざすあり方を県民に周知するのに役立っています。また、神戸大学異文化研究交流センターやWHO神戸センター、地球環境戦略機関関西研究センター等の様々な関係機関と連携し開催している「平和の技術」に関する講義も、高度で専門的な内容であるにもかかわらず多数の県民が熱心に受講しており、各機関の活動の周知や理解が図られているところです。

学術交流本部では、今後ともカリキュラムの充実を図り、幅広い高度な知識を積極的に地域に還元することで、阪神・淡路大震災の被災地ひょうごにおける国際的な学術交流に寄与したいと考えています。



多文化共生社会を築く次世代人材の育成のために —兵庫国際サマースクール(アジア若者塾)の実施—

「兵庫国際サマースクール(アジア若者塾)」は、兵庫発の国際貢献を推進し、多文化共生社会実現を担う内外の次世代人材育成を目的として、平成18年7月から8月にかけて神戸市灘区のセントキャサリンスカレッジ(オックスフォード大学)神戸インスティテュートにおいて当機構が初めて実施したものです。

このスクールは、オックスフォード大学等、国内外の著名な教官を講師とし、県内大学等により推薦を受けた県内及びアジア・太平洋地域における学生等(10ヶ国33名)を「人間の安全保障」及び「多文化共生」の2つのコースに分けてオール英語で行われました。

カリキュラムは、講義だけでなく、兵庫県やHAT神戸の国際関係機関等の紹介、学生間での活発な討論会等をも含めた多彩かつ国際的なプログラムで構成されています。

夏休みの約4週間にわたる合宿生活を通じて、参加学生たちは「人間の安全保障」や「多文化共生」について理解・考察を深め、「地球市民」としての自覚を認識しあう等、大きな成果を上げました。当機構では、初年度の実績を踏まえ、カリキュラム等の改善・充実を図り、地球社会の将来にとってかけがえのない若い世代の知的交流国際ネットワークの構築を目指していきます。

なお、平成18年度のサマースクールの実施結果は、参加学生がとりまとめてHPで公開し、当機構のHPから見る事ができます。

(<http://www.hemri21.jp>)



学術交流本部

学術交流本部では、上記の「21世紀文明研究セミナー」や「兵庫国際サマースクール(アジア若者塾)」をはじめ、「大学連携ひょうご講座」や「ヒューマンケアカレッジ事業」等の学術交流を進めるとともに、多文化共生の在り方に関する調査研究等を進め、内外の交流や人材育成に努めていきます。

中越の復興過程と現状を見つめる企画展

「10.23 新潟県中越地震から2年。KOBEからのエール」を開催

この展示は、2004年10月23日に発生した新潟県中越地震発生から2年の時間の経過を経て、復興過程や現状について、同じ被災地である神戸からの視点で振り返り今後の課題を探ろうと企画されました。

会場では、死者67人、重軽傷者4,795人、住家被害120,746棟という被災状況の地図や地震の概要、災害の特徴について展示。「二つの巨大地震」と題して河田恵昭センター長の比較コメントなど支援関係者からのメッセージに加え、災害初動の対応や避難・仮設住宅、被災建物の調査や住宅再建など各段階における状況が紹介されました。また神戸の経験と教訓がどのように生かされたかを検証するコーナーも設けました。



11月15日には中越復興市民会議・稲垣文彦氏を迎え、中越の現状と今後の復興を考えるワークショップを開催。

今後も震災を風化させることなく、KOBEの経験を伝え、よりよい復興へつなげていくため、当センターでは来年以降も“中越”の企画展を開催していきます。

観覧者200万人突破

阪神・淡路大震災の展示や資料を通じて防災の重要性やともに助け合いながら生きていくことの大切さを伝える人と防災未来センターには、毎年国内外から50万人以上の方が見学に訪れています。

平成18年7月8日には開館以来200万人を突破したことを記念し、200万人目の来館者には、河田センター長から花束と防災グッズなどの記念品が贈られました。

さらに10月に行われた「のじぎく兵庫国体」・「のじぎく兵庫大会」の開催中には、選手団や国体観戦の方々も数多く来館され賑わいをみせました。

今後も震災の教訓と命の尊さを発信しつづけ、より多くの方に来ていただける魅力ある展示、施設づくりを進めていきます。



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

防災未来館・ひと未来館の展示運営のほか、震災資料の収集・保存、災害対策専門職員の育成、実践的な防災研究、若手防災専門家の育成を行っています。また、さまざまな蓄積を生かして、被災地への災害対応の現地支援や防災関係者間の連携となる取組みを実施しています。

開館時間

9:00～17:00 (入館は16:30まで)
ただし、7～9月は9:30～18:00 (入館は17:00まで)
金・土曜日は19:00 (入館は18:00まで)

休館日

毎週月曜日 (祝日の場合は翌平日)
年末年始 (12月31日・1月1日)
※ゴールデンウィーク期間中 (4月28日～5月5日) は無休

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL 078-262-5050 (観覧案内)

URL <http://www.dri.ne.jp>

HAT神戸 掲示板

(財)地球環境戦略研究機関関西研究センター (IGES)

2006年度「産業と環境」国際シンポジウム

持続可能なライフスタイルとビジネスモデルを求めて
～「持続可能な消費と生産」の政策動向～

日時 2007年1月17日(水) 13時30分～17時15分 **参加費** 無料
場所 神戸ポートピアホテル 本館地下1階「偕楽の間」 **定員** 150名(先着順)
内容 基調講演
ミハエル・クント
国連環境計画/ヴァッパー気候・環境・エネルギー研究所・持続可能な消費と生産共同研究センター所長
郡 篤 孝
IGES関西研究センター・産業と持続可能社会(BSS)プロジェクト プロジェクトリーダー代行

TEL 078-262-6634 URL http://iges.or.jp/iges_kansai/jp/index.html

国際連合地域開発センター(UNCRD) 防災計画兵庫事務所

2007年国際防災シンポジウム

「知っておこう、世界の防災文化」～すまい・まちづくりの視点から～

日時 2007年1月18日(木) 13時～17時
場所 よみうり神戸ホール **定員** 200名(先着順・事前申込可)
参加費 無料・日英同時通訳付
内容 世界各国で災害が多発し、多くの人々が災害により困難に直面しています。災害の危険性をできるだけ低減するために、「防災」を「文化」に昇華することが必要だと考えます。本シンポジウムでは、インドネシア、ネパール、ベルー、日本の専門家が、各国での取り組みを紹介します。「防災文化」について考えてみませんか?

基調講演者：C.V.R. ムルティ World Housing Encyclopedia 編集長
小谷俊介 千葉大学教授・前日本地震工学会会長

TEL 078-262-5560 URL <http://www.hyogo.uncrd.or.jp>

「こころのケア」研修の受講生募集

兵庫県こころのケアセンターでは、平成19年2月から3月にかけて実施する下記研修の受講生を募集しています。申込方法等詳細については、当センターのホームページをご覧ください。研修情報課までお問い合わせください。

■区分・コース名・期間・定員・受講料

区 分	コース名	期 間	定 員	受講料(資料代等)
専門研修	保健・医療・福祉— 対人支援職のためのセルフケア	2月7日(水)・8日(木)(2日間)	30名	2,000円
	トラウマケアのための 相談援助の実際	2月14日(水)・21日(水)(2日間)	20名	3,000円
	消防職員のための 惨事ストレスの理解と予防	2月15日(木)・16日(金)(2日間)	30名	2,000円
	DV被害者のこころのケア	3月1日(木)・15日(木)(2日間)	30名	2,000円
	PTSD臨床診断	3月4日(日)・18日(日)(2日間)	20名	3,000円
基礎研修	「こころのケア」の基礎	3月16日(金)(1日間)	100名	500円

■**受講対象職種等** 保健師、精神保健福祉士、教員、消防職員等、研修コースによって異なります。

■**会場** 兵庫県こころのケアセンター

「トラウマからの回復」をテーマに、「こころのケア」シンポジウムを開催

10月18日、「こころのケア」シンポジウムを兵庫県公館にて開催しました。このシンポジウムは、センターの研究成果などについて広く発信する場として、毎年度開催しており、3回目となる今回は、「トラウマからの回復」をテーマに開催しました。

研究報告とパネルディスカッションの2部構成で行い、研究報告では5人の研究員が災害や遺族ケア、惨事ストレスなどについて、研究成果を報告しました。また、パネルディスカッションでは、大規模交通災害や犯罪被害、DVなどにより、こころに傷を受けた被害者への支援のあり方について、実際に犯罪被害に遭われた方がその心情を語られるなど、当事者、医師、弁護士、研究者、それぞれの立場から発言が行われました。

当日は約330人が参加し、「こころのケア」の重要性について改めて考える機会となりました。



兵庫県こころのケアセンター



こころのケアに関する相談・診療を行うほか、保健・医療・福祉などの関係者を対象に、専門研修と基礎研修を実施しています。さらに、災害や事件、事故、犯罪被害、虐待などさまざまな状況での「こころのケア」の実践的研究を進め、フィードバックしています。

相談室 毎週火曜～土曜日9:00～12:00/13:00～17:00

診療所 毎週火曜～土曜日9:00～12:00/14:00～16:00

休館日及び休診日 日曜日・月曜日・祝日・年末年始

※ただし月曜日がハッピーマンデー又は振替休日の場合、その前の週の土曜日は休館します。

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

TEL 078-200-3010

URL <http://www.j-hits.org>

兵庫県災害医療センター

「DMAT研修スタート」

DMATとは災害急性期(48時間以内)に活動できる機能性を持ったトレーニングを受けた医療チームのことです。全国を対象に実践に即した災害医療研修として2006年から兵庫県災害医療センターで開催されています。研修内容は、災害医療、などの基本的な講義から災害現場を想定した各種シミュレーション、トリアージや瓦礫下の医療などの実践訓練などのトレーニングです。この研修により、大災害時に迅速に被災地に駆けつけ、現地で災害救急医療を行うことができるよう密度の濃いトレーニングを行っています。

TEL 078-241-3131 URL <http://www.hemc.jp>

国際防災復興協力機構(IRP神戸)

国際津波・地震フォーラム ～津波・地震災害からの復興と兵庫行動枠組の推進～

日 時 2007年1月15(月)10時30分～17時45分・16日(火)10時～17時30分

場 所 神戸国際会議場 **参加費** 無 料

内 容

15日(月)一般公開 自然災害の経験や教訓、復興過程における災害に強い国づくりについて、情報を共有し知見交換するとともに、兵庫行動枠組のさらなる推進のための国際協力を展望する「国際シンポジウム」を開催します。

16日(火)専門家対象 津波被災地などの復興状況の検証とともに、復興具体策を探るため、住宅復興、生活復興、復興における組織体制という3つの分科会と全体討議からなる「専門家会合」を開催します。

15日の参加希望者は氏名・職業・住所・電話/FAX番号をご記入の上12月28日までにIRP事務局宛Eメール irp-event@recoveryplatform.org または FAX 078-262-6046までお申し込みください。このフォーラムの詳細につきましては、IRPのHP (<http://www.recoveryplatform.org/jp>) をご覧ください。

TEL 078-262-6041

新研究情報誌「21世紀ひょうご」が創刊されました。

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構の発足に伴い、従来の「21世紀ひょうご」をリニューアルし、新たな機構の研究情報誌を発行しました。

現代社会におけるさまざまな行政問題や地域課題のほか機構の研究テーマに関する研究情報について発信していきます。

ただいま定期購読者を募集しております。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

創刊号の内容

巻頭言 (財)ひょうご震災記念21世紀研究機構のめざすもの
 特集 ひょうご新シンクタンクの発足にあたって
 シンポジウム 21世紀文明シンポジウム
 「これからの50年、日本は何をめざすか」
 特別寄稿 アジアに迫る少子高齢化

B5版(年2回発行)
 定価 800円(送料別途)
 定期購読料(年間)1,600円(送料込)



各種双書を販売中です。

世代を越えた人生読本としての「長寿社会双書」、県民向けにヒューマンケアをやさしく解説した「ヒューマンケア双書」を出版し、販売しています。ご購入希望の方は事務局までお問い合わせください。



「いのちを問う」野尻武敏・加地伸行・村上和雄・高木慶子著 1,500円(税別)
 「ヒューマン、その生と死」(財)兵庫県ヒューマンケア研究機構編集 1,300円(税別)
 「現代養生訓 ―ナンパーワンよりオンリーワン―」外園一人著 1,300円(税別)
 「ビューティフルエイジングライフマネージメントのすずめー」小室豊允著 1,100円(税別)
 「生涯学習を考える―その方向と国際比較―」(財)兵庫県長寿社会研究機構編 1,200円(税別)
 「長寿社会を生きる―美しく老いるために―」野尻武敏著 1,000円(税込)
 「働きざかりからの長寿人生マップ」三木信一編 1,000円(税込)
 「学びのエイジレスライフ」鈴木正幸編 1,000円(税込)

1.17 防災未来賞『ぼうさい甲子園』表彰式・記念講演会 参加者募集中

今年全国から募集した防災教育の優秀な取り組みについての表彰・発表します。

参加ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

日時 平成19年1月7日(日)
 13時～16時30分

場所 兵庫県公館
 表彰・事例発表 各賞受賞校等
 講演

テーマ 「地域における防災教育のあり方
 ～新たな災害への備えとして」

講師 室崎益輝 消防大学校消防研究センター所長
 人と防災未来センター上級研究員

減災シンポジウム 参加者募集中

21世紀の減災戦略～減災文化の構築に向けて～

震災等の教訓から、減災に主眼をおいた施策の必要性について広く発信することにより、「減災文化」の構築を目指します。

参加ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

日時 平成19年1月11日(木) 13時30分～17時

場所 兵庫県公館

基調講演 「21世紀の災害と備え」尾池和夫 京都大学総長

事例発表 「静岡県の東海地震対策」小林佐登志 静岡県総務部防災局長

パネルディスカッション 「減災文化の継承と発信」

パネリスト 河田恵昭 人と防災未来センター長・京都大学防災研究所長
 デビッド・マメン

グッド・ガバナンス研究センター(在ニューヨーク)所長・京都大学客員教授

吉川肇子 慶応義塾大学商学部助教授

コーディネーター 林 敏彦 安全安心社会研究所長・放送大学教授

* 理事長 貝原 俊民
 * 基本財産 10億円

* 震災記念基金・運用財産 70億円
 * 予算規模(平成18年度) 17億7,200万円



創刊号

2006年12月発行

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センターひと未来館6階)

URL <http://www.hemri21.jp>

●事務局	TEL.078-262-5585	FAX.078-262-5587
●研究調査本部	TEL.078-262-5570	FAX.078-262-5593
●人と防災未来センター	TEL.078-262-5050	FAX.078-262-5055
●学術交流本部	(〒650-0021 神戸市中央区三宮町1-10-1 神戸交通センタービル4階)	TEL.078-327-4380 FAX.078-392-0071
●こころのケアセンター	(〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2)	TEL.078-200-3010 FAX.078-200-3017

